

朝霞市部活動 地域展開ニュース③



令和7年10月
朝霞市教育委員会

朝霞市部活動の在り方検討会議の取組紹介

朝霞市では、令和4年5月から「朝霞市部活動の在り方検討会議」を中心に、部活動の今後の在り方や地域展開に向けた検討・協議を進めているところです。今回は、これまで検討・協議してきた内容の概要をお伝えします。

令和4年度は、会議を3回開催し、主として朝霞市の実態を把握する必要性を確認し、アンケート調査をすることとしました。アンケートの対象、内容等について協議を重ね、対象を中学校教職員、全中学生と全小学6年生及びその保護者とし、令和5年1月から2月の間にアンケート調査を実施いたしました。

令和4年度

- 朝霞市部活動の在り方検討会議による協議・検討を全3回実施
 - ・朝霞市の課題整理
 - ・実態把握の重要性確認 → アンケート実施を決定
 - ・アンケート内容の検討・決定
 - ・アンケートの実施（R5.2月） ※現在市のHPで公開中

令和5年度は、会議を3回開催いたしました。一部改正した朝霞市の部活動方針やアンケート結果を朝霞市のホームページで公開いたしました。教職員が意見表明できる機会を確保するために、顧問一斉会議を開催し、水泳部の合同部活動化に向けて検討していくこととしました。

令和5年度

- 朝霞市部活動の在り方検討会議による協議・検討を全3回実施
 - <第1回>
 - ・アンケート結果分析 → 9月朝霞市HP公開（現在も公開中）
 - ・各中学校における課題の報告
 - ・市部活動方針の検討（第2版） → 朝練習の廃止
 - ・顧問一斉会議開催に向けた検討 → 教職員の意見を聴取（8月に実施）
 - <第2回>
 - ・埼玉県の方角性を情報提供
 - ・他市町の進捗状況情報提供
 - ・部活動顧問一斉会議の結果報告
 - <第3回>
 - ・市部活動方針の確認（第3版）
 - ・市部活動方針の検討（第4版） → ①例外規定②平日の部活動終了時刻③県外遠征
 - ・水泳部合同部活動化に向けた検討
 - <その他>
 - ・朝霞市スポーツ協会との連携 → ①進捗状況の説明②協力依頼③アンケートの実施

令和6年度は、会議を2回開催いたしました。主として市の部活動方針の改正や水泳部の合同練習体制に向けた検討をしました。水泳部は市内で朝霞第一中学校にのみ設置されています。中学校では水泳部に入りたい6年生のうち、一中校区外に住む6年生が、中学校自由選択制を利用して一中を選択するケースがあります。そのため、一中での合同練習体制を整備し、他校からも練習に参加することができるようにすることで、部活動を地域で展開していくことの足がかりとなるのではないかとという視点で検討することとしました。しかしながら、実施を想定した場合に様々な課題が考えられることから、一旦保留としました。ただし、今後も部活動の地域展開について検討していく中で、引き続き協議を続けてまいります。

令和6年度

○朝霞市部活動の在り方検討会議による協議・検討を全2回実施

<第1回>

- ・各中学校における課題等の報告 → 人材バンク整備必要性の確認
- ・市部活動方針の検討（第4版） → 例外規定の統一
- ・水泳部合同練習体制についての検討

<第2回>

- ・水泳部合同練習体制についての検討 → 実施に向けた課題も多く、一旦保留とする
 - ①年間を通した練習場所の確保に課題がある（特に冬場）
 - ②市の部活動方針に則った適切な練習時間を平日・休日ともに設定することが難しい

<その他>

- ・聞き取り調査（地域スポーツ団体、人材派遣会社、民間スポーツクラブ等）
- ・人材バンクの整備 → ①朝霞市スポーツ協会との連携②広報による人材募集

令和7年度は、現時点で会議を3回開催しています。今年度中には、朝霞市としての方向性を示していけるよう、準備を進めています。現在3回の会議を通して、市としての方向性案を作成しました。市内中学校に案を周知し、先生方の意見を聴取しているところです。今後は、朝霞市のスポーツ団体等にも案をお伝えし、意見を伺う予定です。

令和7年度

○朝霞市部活動の在り方検討会議による協議・検討を3回実施（今後も実施予定）

<第1回>

- ・朝霞市としての方向性を検討 → 案として整理

<第2回>

- ・朝霞市の方向性案を再検討し、修正 → 8月中に各中学校にて周知

<第3回>

- ・方向性案に対する教職員の意見を確認し、方向性案の課題を整理

<現在行っていること・行う予定>

- ・方向性の確定及び周知
- ・民間団体へのヒアリング
- ・朝霞市スポーツ協会との連携
- ・人材の公募
- ・進捗状況の広報（たよりの配信・HP掲載・・・1・2号を現在掲載中）

※国の方針が「地域移行」から「地域展開」へと変更されていることから、タイトルも本号より変更しております。